



# 小倉ロータリークラブ 週報

R I テーマ：“奉仕しよう”

“みんなの人生を豊かにするために”

R I 会長：シェカール・メータ 氏

(所属：インド、カルカッタ-マハナガル RC)

地区テーマ：“取り組もう 基盤強化と超我の奉仕”

地区ガバナー：貴 正義 氏(所属：福岡南 RC)

クラブテーマ：“原点回帰！ 魅力ある楽しいクラブへ”

～会員増強とインパクトのある奉仕～

会長 杣 巍 / 幹事 佐竹 信也



表紙写真(テーマ/クリスマスマーケット 2021 博多)

日本医師会生涯研修会出席の後、今年もクリスマスマーケットで楽しみました。昨年にも増した賑わいで、恒例のホットワイン入りの持ち帰り自由のマグカップは水色、昨年はピンクでした。

【写真撮影：天ヶ瀬 洋正 会員／令和3年11月14日／博多にて】

例会場 リーガロイヤルホテル小倉 TEL 093(531)1121

《報告に関して、敬称略》

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

事務局 e-MAIL : kokura@2700rid.com

事務局 北九州市小倉北区浅野2-14-2 リーガロイヤルホテル小倉 2F TEL(531)1727 FAX(522)4333

クラブ会報委員会 委員長：城 健一郎 副委員長：竹中 休義

委員：久保田 彰、平野由太郎、藤澤 修司、安田堅太郎、伊藤 泰

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

## 本日の例会 第3493回

- ・国歌斉唱
- ・ロータリーソング “2700 のマーチ”
- ・卓話  
　　大阪経済大学 教授  
　　福本 智之 氏
- ・年次総会（次年度役員・理事選任）

## 第3492回 例会 記録

11月26日(金) 普通例会

- ・ロータリーソング “四つのテスト”

- ・卓話

　　小説家

　　町田 そのこ 氏

（今川名誉会員との対談）

## 会長の時間

坪根 副会長

今日は町田そのさんの卓話があるということで、楽しみにしています。先週、甲木さんから予習をしておくようにとのお達しがありましたので、「52ヘルツのクジラたち」を読んで参りました。さて、私ごとですが、ここ5、6年読書量がかなり減ったような気がします。なぜそうなったかを考えてみますと、その原因の一つが近所の書店が閉店したことだと思います。その書店

は加藤会員や角南会員ならご存じだと思いますが、霧が丘にある、夜12時までやっていた、割と大きめの書店でした。週2回のバンド練習の帰りに、ほぼ毎回立ち寄っていました。私は主に時代物や大沢在昌さんのようなサスペンス？ミステリー？ハードボイルド？が好きなのですが、書店では平積みになっている知らない作家さんや、あまり読まないジャンルの本とも出会うわけです。本屋大賞を獲った「船を編む」ってどんな物語？とか思って手に取るわけです。題名や表紙や帯に惹かれてとりあえず買って帰る。それが私の好みとしては外れのことも多いのですが、初めての作家さんの本が当たりだったときは嬉しいものです。ギャンブルと一緒に、負けは余り覚えていませんが、勝った記憶はずっと残るものです。そうして、読む本の幅が広がっていったような気がします。この何かのついでに寄って本を手に取るというのが楽しいわけです。ネット販売も便利でよく利用しますが、目的のものがあつてそれを探しに行く、好きな作家さんの新刊を注文するには便利ですが、知らない作家さんの本を気軽に手に取るのには向きだと感じています。クエストに行けばいいじゃないかと言われそうですが、わざわざ感がぬぐえません。飲み会の前や買い物ついでに行くこともありますが、近所の書店が無くなつて、本屋さんにふらつと寄る習慣が無くなつてからは、クエストに寄ることも少なくなったような気がします。最近活字離れが叫ばれていますが、こういった近所の本屋さんが少なくなると、ますます本を手に取る機会が少なくなるよう

な気がします。また帰り道に遅くまでやっている本屋さんが出来ないかなと思う今日この頃です。

## 幹事報告

佐竹 幹事

(「IM」の件)

既にメールおよび例会でご案内しておりますとおり、来年1月22日(土)に、国際ロータリー第2700地区第2グループのIM(インターナシティ・ミーティング)が開催されます。本日がクラブ内の申込みの締め切りとなっております。是非多くの皆様がご参加くださるようお願いいたします。

## 出席報告

袖須 委員長

2021年7月1日: 65名でスタート

	会員数	出席者数	メークアップ	出席率
当日の出席	68名	42名	—	76.36%
先週の出席	68名	34名	29名	91.80% 修正後

◆ゲスト 2名

- ・町田 そのこ 氏(卓話者)
- ・グエン ズイ ヴアン 氏 (米山記念奨学生)

◆ビジター 0名

◆名誉会員 1名

- ・今川 英子 氏

## 委員会報告

### 親睦活動委員会

棟安 委員

12月16日(木)の年忘れ家族夜間例会について、再度ご案内いたします。当日は、恒例の大抽選会はありませんが、豪華景品が当たる特別抽選会を企画しています。子どもさんにはサンタさんからのプレゼントをご用意しています。お楽しみいただけると思いますので、ぜひご家族をお誘いのうえご参加ください。

### 社会奉仕委員会

伊井 委員長

北九州市が開催する「小倉都心部クリーンキャンペーン」のご案内です。既にメールでもお知らせ致しましたが、12月8日(水)午前10時から、市民参加の清掃活動があります。当クラブも奉仕事業として参加したいと思います。参加される方は、小倉駅前セントシティ(旧コレット)の北側または西小倉駅前にご集合下さい。周辺を清掃し、10時30分を目安に所定の場所にゴミを置いて隨時解散となります。雨天中止です。メークアップの対象となりますので、参加された方は事務局まで申告してください。

## ニコニコ献金

藤澤 副SAA

10,000円 : 累計金額 157,000円

原田 光久 君

小生何十年も相当量のアルコールを飲むのを常とし

ていましたが、最近はやめています。先日19日の「武蔵」での親睦活動委員会、早めに席をたちました。その時は、豊川さんと宮島さんのお二人にタクシーのところまでお送りいただき誠にありがとうございました。

伊与田 修 君

11月21日、娘の結婚式が名古屋でありました。コロナ禍で心配していましたが、無事に終わりホッとしています。

渡辺 茂 君

次の例会は、東京ドームで都市対抗野球大会の応援のため欠席します。申し訳ありません。

甲木 正子 君

町田そのこさん、本日は卓話をありがとうございます。今川館長、よろしくお願ひします。

## 卓話

小説家

町田 そのこ 氏

『誰かが救われる、背中を押される物語を』  
(今川名誉会員との対談)



町田そのこ氏は「52ヘルツのクジラたち」で2021年本屋大賞を受賞した京都郡在住の作家。卓話は今川英子名誉会員との対談形式で行われた。主な内容は次の通り(敬称略)。

今川: 作家を志したきっかけは?

町田: 27歳まで主婦で人に胸を張れるものが何もない自分が嫌だった。そんな時、大好きな作家・氷室冴子さんが亡くなった。いじめにあっていた小学校の時、氷室さんの小説に救われ「いつか作家になって氷室さんにお札を言いたい」と思っていたのに、自分は何をしてい



たのか。そこから小説を書き始めた。子供を抱いてガラケーで小説を打った。パソコンが欲しくてパートもした。

今川：文章を書く練習はどうしたのか？

町田：小説の修業などしたことがないので、プロの文体を盗もうと桜庭一樹さんの「私の男」という小説を一冊丸々写した。句読点の打ち方など勉強になった。

今川：通常、小説家を志す人は同人誌やサークルで書くけれど、町田さんの手法は現代的だ。独力でこれだけ書けるのは持って生まれた力なのか。

本屋大賞を受賞した「52 ヘルツのクジラたち」とはどういう意味か。

町田：普通のクジラには聞こえない、52 ヘルツの音域で鳴くクジラが実在すると知った。他の仲間には声が聞こえないことから「世界一孤独なクジラ」と呼ばれている。長編を書くならコレだ、と思っていた。



今川：この小説で届けたかったメッセージは？

町田：苦しいと声を上げられない人、言い方を知らない人の声なき声に耳を澄ませてほしいということ。虐待やヤングケアラーを取り上げた。

今川：それは自身の体験から？

町田：いじめにあった時、集団の中の孤独を味わった。いつも、誰か気づいてくれないかと思っていた。

今川：新聞のコラムに、本屋大賞を受賞して「恩返しをする番になった」と書いていた。

町田：教室にいづらくて、学校のトイレで立ったまま氷室さんの小説を読んだ。物語が私を励まし、生かしてくれた。ひねくれずに生きて来られたのは物語のおかげ。今度は私が恩返しをする番だ。

今川：大きな賞を取ると東京に行く人が多いが、町田さんはずっと京都郡に住んでいる。

「52ヘルツ」には馬借やチャチャタウンが、「コンビニ兄弟」には門司港がばっちり出てくる。

町田：若いころは大阪や東京、せめて博多に出たいと思っていたが、この年になると地元の景色一つ一つに思い出がある。子育てをしていると地域で見守ってもらう安心感がある。リモート取材も増え、地方に住むデメリットを感じない。これからも出でいかない。

専門学校時代に授業を抜け出して門司港やチャチャ

タウンで遊んでいたので、思い付きで小説に入れたら面白くなって。読者は（小説の舞台をめぐる）聖地巡礼をしてくれているようだ。

今川：町田さんはすらすら文章を書かれて、苦しんで書いていないように見える。

町田：書くのが辛い、やめたいと思ったことはない。家事育児があるので執筆は8時～17時までと決めていて、書けない時は「貯めている」のだと思う。

今川：（文学の）ミューズが乗り移っているようで今後が楽しみだ。今日のロータリーでの卓話はいかがだったか？

町田：独特の雰囲気で緊張もしたが、どこか（小説）使えるかも。取材をお願いしたら門前払いせず協力してほしい。

今後も誰かが救われる、背中を押されたと感じてもらえる、そんな小説を書きたい。（了）

※町田そのご氏の著書は市内の書店で好評発売中（クエストでは入り口近くにコーナーもあります）。「52 ヘルツのクジラたち」「コンビニ兄弟」や最新作「星を掬う」も！ ぜひお買い求めください。

【対談まとめ：甲木会員】

## 健康診断を行いました

健康管理委員会による健康診断を例会前に行いました。2回に分けて開催する予定で、次回は12月24日に行います。

◎日時：11月26日（金）11時～12時20分

◎場所：リーガロイヤルホテル小倉4階 桜の間



## 米山記念奨学会「特別寄付金」

例会当日寄付者

・原田 光久

合計

2021～22年度累計金額

3,000円

533,000円

## 次回例会予告

12月16日（木）夜間例会

- ・ロータリーソング “我等の生業”
- ・年忘れ家族夜間例会 於：リーガトップ